

社会教育クローズアップ

「芸術の秋」体験してみませんか？～北海道立帯広美術館～

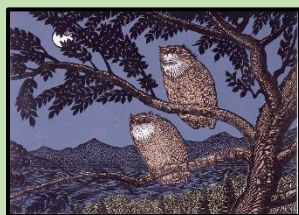
〈美術館や博物館等を活用した芸術文化に身近に接する機会の充実〉に向けて

本号では、北海道立帯広美術館が提供する、美術作品との出会いをサポートし、楽しみながら美術館を活用してもらうための取組を御紹介します。

帯広美術館は、学校の授業や学校行事の一環として利用する場合には、児童生徒、引率者の観覧料が免除になります。現在（令和6年7月から10月まで）は臨時休館となっていますが、zoom 配信で学芸員が作品の説明や質疑応答を行うオンラインアート教室は通年で開催しています。帯広美術館では次のようなプログラムで実施しています。

帯広美術館 オンラインアート教室内容例（1. 対象 2. 活動内容 3. 美術館からの発信）

アートカード（令和6年5月8日～令和7年3月16日）



作品例：
しまふくろう・なく
1990年

1. 小学校低学年から
2. カードを使って、鑑賞の楽しさを体験する
3. 年齢や対象、目的に合わせてカードの使い方を提案する

展覧会（※休館中休止 令和6年11月1日～令和7年3月16日）



作品例：
羊飼いに現れた天使
1634年

1. 小学校低学年から
2. 教室で作品鑑賞をする
3. 事前に撮影した会場風景写真や動画を配信しながら作品の解説をする

コレクション（令和6年5月8日～令和7年3月16日）



作品例：
落穂ひろい
1855～1856年

1. 小学校高学年から
2. 写真や動画で、詳しく学習したり、じっくり鑑賞したりする
3. 作品について、質疑応答をしながら紹介する

美術館探検（令和6年5月8日～令和7年3月16日）



道立帯広美術館
外観

平成3年（1991）
9月開館

1. 小学校低学年から
2. 普段は見られない美術館の裏側や美術館で働く人の姿を含め、美術館の特徴や役割について学習する
3. 帯広美術館の各所を写真や動画で紹介する

オンラインアート教室は、学校での授業や部活動での活用のほか、市町村の研修会や公民館、図書館講座、社会教育団体の文化講座、放課後子ども教室、ネイパルでの文化体験活動や研修でも活用できます。

今年度、オンラインアート教室を利用した受講者からは「美術館に行ったことがないが、行ってみたいと思った」「絵の見方がわかった」という声がありました。また、学芸員の方から、日本画と油絵の表現技法の違いの詳しい解説を聞けたり、「なぜ美術が存在するのか」など本質に迫る質疑応答が経験できたりすることで、**受講者の美術や美術館への興味関心が高まっている様子**が伺えました。さらに、十勝管内だけでなく、釧路管内、根室管内も対象としていることから、普段遠方で芸術作品を直接鑑賞できない方々にとっても、有意義な体験となっていました。

十勝教育局では、引き続き、美術館等の社会教育施設の活用の推進を図ってまいります。

【発行・お問合せ先】

北海道教育庁十勝教育局

北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班（皆川・福原）
住所：〒080-8588 帯広市東3条南3丁目
電話：(0155) 26-9243（直通） 平日 8:45～17:30
E-mail：fukuhara.natsumi@pref.hokkaido.lg.jp